

「2018 文化遺産デザイン研修」の記録

藤澤 愛

2018年12月15日、京都府立京都学・歴史館主催「京都の歴史を歩こう！！栗田口編」が開催された。この遠足は、京都府立大学文学部歴史学科の学生が主体となって運営しており、府民から参加者を募集してさまざまな史蹟を実際に歩きながら解説するものである。本稿では歴史学科有志の学生によって行われた当日までの活動について述べる。

【1月～6月】2017年12月にメンバー募集があり、2018年1月に1・2回生（当時）のメンバーの顔合わせを行い活動を開始した。メンバーを3つの班に分け、それぞれの班で2案ずつ遠足候補地を出すことになり、4月6日のミーティングにおいて、遠足をおこなう地域を栗田口に決定した。

【7月～9月】7月からは新たに1回生の有志を加えて活動を始めた。1回生を従来の班に組み込むとともに、3班のうちの1班を、遠足全体を取り仕切る総括班とすることにした。

夏休み中には栗田口を3つのエリアに分けて、班ごとに1つのエリアを担当することにした。それぞれの班が文献や論文を使ってエリアを調べ、その内容を毎週報告書にして提出することとした。

9月9日には他大学の先生や学生などに向けた巡検をおこなった。終了後に頂いた意見をもとにして、9月25日の話し合いでテーマを『創造（クリエイト）』とすることに決定した。

【10月～12月】12月の遠足本番に向けて、11月25日に現地でプレ遠足を実施した。京都府立大学文学部歴史学科の教員、学生に来ていただき本番と同じルートを歩いた。その後参加者の方々に当日配る資料の作成・小道具の準備などを行い、12月15日に遠足の本番を迎えた。

このほかに、今年度からの試みとして「れきしんぶん」を7月と12月に発行した。これは学内での歴史学科の先生や学生の活動を学内・学外に向けて紹介するものである。今後も継続して発行していく予定である。

以上が今年度のデザイン研修の主な活動である。今年は、学年に関わらず積極的に遠足に関与していける雰囲気があり、またルートを先に決めたことで遠足の軸を定めることができた。しかし、メンバーそれぞれの役割が不明確だったために、メンバー間の仕事量に差が出てしまったことは来年に向けての反省としたい。